

生物多様性に関する国際的枠組み

Wanted: an IPCC for biodiversity

2010年6月3日号 Vol. 465 (525)

生物多様性の問題に関しても、独立した国際的な科学委員会を設立すべきである。

これによって、緊急性の高いテーマに関する研究活動を調整し、研究内容を社会に紹介する役割を果たせるだろう。

エコノミスト Nicholas Stern の主導によって作成され、2006年に発表された気候変動の経済学に関する報告書は、長期的な気候リスクに対応する必要性を、世界の人々に喚起する警告となった。それもあって、この10月に発表予定の「生態系と生物多様性の経済学」研究の最終報告書は、「自然に関する Stern 報告書」と喧伝されている。当然、生物多様性損失による大きな代償を明らかにするとともに、生態系の破壊や生態系による恩恵の喪失を明示した厳しい内容の報告書になるとみられる。この生態系と生物多様性の経済学に関する研究は、2007年にポツダム（ドイツ）で開催された主要8か国（G8）と新興5か国の環境担当大臣会合の成果の1つだ。この研究の組織者は、その成果を通して、政策立案者の姿勢を正したいと期待している。

現在、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）を連想させる組織を設立し、生物多様性の変化を科学的に精査し、その影響の予測をめざす動きが進行している。2010年6月7日～11日、釜山（韓国）で、世界各国の代表が、「生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）」という長ったらしい名前の付いた組織の設立について議論し、詳細はともかく、その設立に関しては合意をみた。

ところで、生物多様性という問題に対処するうえで、IPCCモデルは適切なのだろうか。気候は全地球の問題であるのに対し、生物多様性の変化は、もっと地域的な問題だ。IPBES推進派もこの点は認めており、IPBESは当初から、地

球規模だけでなく地域規模での評価にも取り組むことになっている。気候変動によって生じる極めて複雑な課題は、政策立案者や一般市民にとって、「地球上の気温がどこまで上昇するのか」といった単一の指標に突きつめることができた。しかし、生物多様性の場合、同様の重要な単一の指標が存在しないのだ。

こうした違いはあるものの、気候変動と生物多様性損失には、1つの重要な共通属性がある。ともに、経済的に重要な実在の現象だということだ。ところが、このことを無視してしまう人が少なくない。IPCCの報告書によって、気候変動の問題を無視することがかなり難しくなった。もしIPBESが、生物多様性と生態系の変化についても同じ状況を生み出すことができるなら、約1200万ドル（約10億円）と提案されている年間予算は十分に価値あるものといえよう。

最近の問題に対応して改善を図るならば、IPCCは今後も国際レベルにおける独立的科学評価の「究極のお手本」であり続けるだろう。IPCCの報告書は、正式な政府間プロセスの成果なのである。IPBESの代表者は、このような特徴を再現してIPBESを強力な組織とするよう、最善を尽くすべきだ。

生物多様性を左右する全当事者と確実に対話できるようにするため、IPBESは、生物多様性条約だけでなく、その他の生物多様性に関する条約、国連の諸機関、国際環境非政府組織、国際的な科学機関や民間部門とも正式な関係を構築すべきだ。

これまでのところ、IPBESは、国連環境計画（UNEP）の支持を得ている。

国連環境計画は、世界気象機関（WMO）とともにIPCCを監督している。また、IPBESが環境官庁以外の部門から意見や情報を得るために、さらに支援者の輪を広げるべきだ。例えば、国連食糧農業機関（FAO）がIPBESの運営に助力すれば、農業、漁業関係者のような食糧生産の利害関係者がIPBESの結論を支持する可能性が高くなるだろう。

生物多様性科学に関する標準や基盤（インフラ）の整備は大いに必要とされており、IPBESはそれを重点的に進めていくはずだ。スタンフォード大学（米国カリフォルニア州パロアルト）の生態学者で、IPBES推進派の中心人物であるHarold Mooneyは、IPBESは世界的変化の予測モデルの改良と標準化に力を貸すべきだと主張している。そして、IPBESの予算の一部は、当然のことながら開発途上国における科学研究能力の構築に費やされていくことは間違いない。

さらに、IPBESは、地球観測グループ生物多様性観測ネットワーク（GEO BON）と強力な結びつきをもつようになることも間違いない。GEO BONは、100以上の政府機関とその他の団体が連携している組織で、これらの機関や団体は、既に生物多様性のデータと解析結果を共有している。

GEO BONから質の高いデータを受け、IPBESの活動によって調整された研究を実施することで、生物多様性の科学は発展すると考えられる。IPBESによる定期的な評価は、地球上の生物相の繁栄にも役立つことだろう。 ■

（翻訳：菊川要）